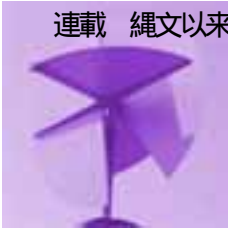


連載 縄文以来の伊達



## 縮絨性、強度に富む英国SHORT DOWN

マテリアル・コンサルタント 川島茂信

英国羊毛は1) SHORT DOWN種、2) LONG WOOL AND LUSTER種、3) MOUNTAIN AND HILL種に大別される。

1) SHORT DOWN種；世界中で一番縮絨性が強い羊毛で、最もCRIMPが強く、スポンジネスに富み、この種の純粋種であるPICK SUPER GRADEの毛を35～50%混入して紡績すると、その最高に強い縮絨力で他の原料をも引っ張って膨らみ、糸の断面が真円になる。このことがスリップ止めになり、織物、ニット、手編み毛糸の場合でも、糸の打ち込みを減らすことが出来、目付けが著しく軽くなり、且つこれが最高に空気を孕むことにつながり、軽く、暖かく、立体感から表面変化をもたらす、適当なる弾力と腰感のある織物、ニットを作ることが出来ます。且つその毛の繊維の強靱さは世界一で、その上目付けの軽いだけCOSTではSAVEできます。問屋・アパレルさんが生地には腰が欲しいと言う意味は糸の断面を真円にせよとの意味で、これを勘違いして、荒くて膨らまない原料を使いますと糸の断面は益々平べったい楕円になり、スリップするので打ち込みが重くなり、板のようなパンパンに固くて重い生地になってしまいます。FANCY / BLENDの傾向の下、表面変化を求めて、糸の断面が真円になる程の縮絨力のある原料をBLENDする事が重要です。

英国羊毛のSHORT DOWN種の主たる羊は； - CLUN FOREST、DEVON CLOSE WOOL、DORSET DOWN、DORSET HORN、HAMPSHARE DOWN、JACOB、KERRY HILL、LIANWENOG、OXFORD DOWN、RYLAND、SHROPSHIRE、SUFFOLK、SOUTH DOWN等です。英国の農民の羊を飼う第一の目的はラム肉を生産する為で、年に一毛を度刈らないと重みで脚を折って死んでしまうが、毛の代金で刈り賃が出ると言います。

最近では低カロリー・ラム肉の生産が成功を納め、世界中での大好評に応え、肉が美味で、体が大きく、頑健で、双子の可能性の多い多産系のDOWN CROSS系の羊が増産されているが、DOWN CROSSの毛は、SHORT DOWN種の純粋種であるSUPER PICK GRADEより縮絨力は劣り、100%で紡績しても糸の断面が真円にならないが、英国羊毛はDOWN CROSSでも濠洲やニュージーランドのSHIROPSHIRE DOWNよりは縮絨力が強く、濠洲、ニュージーランドのSHROPSHIRE DOWNは、ややSOFTで色毛やKEMPIは混入しない。世界中のDOWN種を片端から糸にして、その断面が真円になるかを試した経験からして、英国羊毛が最高の縮絨力に恵まれているのは、酷寒の地にありながら、極めて多雨の環境下でも生き抜けるように、長年の間に与えられてきた、防水機能のおかげと思われる。技術屋さんの御意見では防水機能として、SCALEとSCALEの重なりが深くなるとか、CUTICLEに水分を含む事が出来るとかが、繊維の強靱さと共に縮絨力の強さになると考えられるとのことです。

ブエノス・アイレス周辺でも百年程前に英国のSHORT DOWN種がラム肉目的で飼育されてきたのですが、他に交配する羊が無かったため、未だに純粋種のHAMPSHARE DOWN等、英国羊毛と全く同じ強いCRIMPを持っていますが、英国羊毛のような強い縮絨力は全く失っており、CARD、COMBING、SPINNINGの工程を通るとCRIMPが延びてしまい、英国羊毛のような縮絨力が無くなってしまっているのは、長年ブエノス・アイレスの乾燥した環境で飼われた変化で防水機能を無くしたからでしょう。この事からCLIMPが著しく強いからといって、或いはCLIMPが無いからといって、羊毛の縮絨力を評価すべきではないと思われます。